

障害認識を育む視点での交流・授業等の実践

-A児の障害認識を進める取組を中心に-

小 学 部

1 はじめに

平成25年度、小学部在籍は、6年生の2名（内1名は重複障害）となり、その内のA児は、地域の中学校入学を希望していた。

A児は、希望はするものの、地域の学校で生活することに不安を抱えており、進学後も聴覚障害者集団と聴者集団のコミュニケーションスタイルや価値観のずれに対する理解不足などで様々な困難に直面すると考えられた。様々な困難に対処して行くためには、思春期以降の自己像の確立が重要である。そのためには、自分の障害を理解し周囲に支援を要請する力や、障害があってもありのままの自分を認められる自己肯定感など、「障害認識」の力が不可欠であるため、「障害認識」の力を高める視点で授業・交流などの実践を行うこととした。また、こうした「障害認識」の力は、自己実現や職業選択のベースになるため、キャリア教育にも通じるものである。こうした点も踏まえ、障害認識を進めるためにキャリア教育の実践とも関連付けた実践も行うこととした。

2 主な取組の目的と方法

(1) 地元中学校の難聴特別支援学級参観とインタビューの取組について

ア 目的

本人自身の進路決定に際しての情報を得ること。また、自分の不安に感じていることについて、当事者である難聴生徒からの意見を得て参考にする。

イ 方法

難聴特別支援学級のある中学校を参観し、学習内容の理解、授業形態、コミュニケーションや支援の方法について体験する。また、在籍生徒へ、自分が不安に思っていることや参考にしたいことについてインタビューしてみる。

(2) 進路や仕事、聴覚障害のある先輩を知る取組について

ア 目的

卒業生やいくつか職種の聴覚障害の方にアンケートを実施し、進路や職業観について学習を深める。

イ 方法

自分が進路や仕事について不安に感じていることをアンケートの形で作成し、いろいろな聴覚障害の方の考え方を知る。

(3) 地元小学校での交流を通して自己理解を図る取組について

ア 目的

地域交流に臨む中で、障害認識の視点を持ち積極的に取り組めるようにする。

イ 方法

目標を設定して交流に取り組み、交流後に反省を行い次回に生かせるようにする。交流を重ねる中で、自分の障害や配慮・支援について考えを深めるようにす

る。

3 研究の内容

(1) 地元中学校の難聴特別支援学級参観とインタビューの取組について

A児の住む地元中学校には、E校とN校の二つに難聴特別支援学級が設置されている。E校には、3年生の男子生徒1名が在籍している。A児の校区は、このE校になる。N校は、1年生の女子生徒1名が在籍している。この生徒は、本校小学部の卒業生でA児の1学年上級生にあたり、仲の良い友達であった。

A児とその担任が、開校日の一日を利用し、午前中E校、午後N校を参観した。進路決定の参考のためにA児の保護者も同伴した。

授業参観後、自立活動の授業の中で、A児自身が難聴生徒への配慮や気付いたことをまとめたものが次の表である。

学校	校時	教科	授業形態	配慮や気が付いたこと	後日振り返ったり、補足したりしたこと
E校 3年生	2	国語	1対1	黒板に書きながら、話されていた。別のクラスの声がうるさい。生徒は、見ながら（聞きながら）ノートをとっている。	特別支援学校では、聞く・見る・考える時間、板書（書く）の時間を分けて行うことが多いが、見ながら書くことに新鮮さがあった。他のクラスの騒音にも驚いていた。
	3	英語	1対1	先生が生徒の近くで、説明をされていた。	先生がなるべく、近づいて話をされていた。周りがうるさいとき、近くで聞くことで明瞭度が上がるのが理解できた。
	4	理科	交流（支援員あり）	ほとんど一人の力で授業を受けていた。今どこを学習しているのか、横で支援してくれている先生にたずねていた。	支援員が横にいてくれるが、頼らず自分の力でやる時間も必要。また、どうしても分からないときは支援員に頼れること、その時は具体的に支援してほしいことを依頼する必要があることを学んだ。
N校 1年生	5	美術	交流（支援員なし）	黙々と取り組んでいた。（授業の中で僕も、FMを試したが）先生の声は分からなかったので前の席にしてほしいと思った。FMマイクを口元に近づけてほしいと思った。	先生の話し方も聞き取りに影響すること、マイクの付け方も聞き取りに影響するので、FMの使い方を自分自身で伝えられる力が必要だと理解した。
	6	書写	1対1	足を踏み鳴らし、イライラしていたような感じがした。友達がいないからかな？	集団、一人の授業、それぞれにメリットとデメリットがあるので、自分の意思をしっかりと伝え、授業形態を選ぶ必要があること、自分自身の力でがんばる部分も必要であることを知る。

参観に合わせて生徒へのインタビューを実施した。インタビュー項目は、事前にA児の聞いてみたいことを中心に作成した。また、当日すべてのインタビューができないため、一部当日にインタビューし、その他は、事前にアンケート用紙を送付したものを頂いたり、後日送り返してもらうようにした。A児の不安や気になることを中心に、次の3つ内容について、質問をした。①学習について、②コミュニケーションについて、③進路についてである。

2名の生徒への質問と回答、その回答を振り返ってA児が自立活動の時間で学習したことを次の表にまとめた。

E校3年生男子の回答	N校1年生女子の回答	A児の感想
① 学習について		
Q. 難しい勉強は？		
英語です。特に聞き取り問題（リスニング）が苦手。速くて聞こえなくて、うまく聞き取れないところが難しいです。	英語（文も英語で覚えにくい） 数学（文章問題。意味を読み取るのが難しい。）	リスニングを、スピーカーから聞くのではなく、実際にしゃべってもらう方法や、字幕を見る方法に変えてほしいと思った。
Q. 分からないとき、どうしていますか？		
先生にきくこと。「もう一度言って下さい」ときく。	「もう一回言ってください」	「もう一度」とお願いしても、分からないことが多いので、「分かるようにお願いします」と工夫したお願いの仕方がぼくは必要だと思った。
Q. 授業が分かるようついていきますか？		
ついていけることもあるけど、ついていけない（理解できない）こともある。先生の話が速くて追いつけないところだ。	少しはついていける。頑張ればいける。	スピードが速いと分からないことが増える。ぼくも、ついていけないことがあるので、ゆっくり話してもらえようお願ひしたい。
Q. 授業中、先生が言われていることは分かりますか？		
分かります。先生は、ぼくにゆっくり大きな声で言うので安心します。	少しだけ分かる。 分からないときもあるけど、分かるときもある。	ぼくは、分からないことがきつと多くなると思う。手話や筆談で教えてもらいたい。
Q. 一対一の授業と、みんなとの授業はどちらがよく分かりますか？		
一対一の授業。 みんなとの授業は、みんながしゃべっているので先生の話がうまく聞き取れないところだ。	みんなとの授業	ぼくは、一対一の授業のほうがよく分かる。集団だと、自分だけに言ってくれているのではなく、みんなに言っているのを読み取りにくい。みんなと一緒に、怖いという気持ちも強い。
② コミュニケーションについて		
Q. 友達の話が分からないときがありますか？		
みんな普通に話しているから。何と言っているか分からないときもあります。	始めは、分からなかった事が多かったけど、慣れてくると分かってくる。	分からないときが多いと思う。たくさん話してもらえるように頑張りたい。
Q. 分からないときどうしていますか？		
「何て言ったの？」と友達にききます。	「もう一回言って。」「分からなかったけん、もう一回」とお願いした。	ぼくも、お願いすることを心掛けた。S君は、お願ひの仕方が上手だなと思った。
Q. コミュニケーションの悩みは何ですか？		
自分の気持ちがうまく伝えられないこと。	ない	ぼくも、自分の気持ちが伝えられないこと。話しかけにくかったり、話しかけられたときに、分かったふりや、無視してしまうことがある。
③ 進路について		
Q. 通常学校を選んだのはどうしてですか？		
普通の学校に行って、部活をしたりみんなとふれあいたいし、コミュニケーションをしっかりするためです。みんなとかかわるのは楽しいから。	部活をしたいから。勉強を頑張りたいから。	ぼくも、野球がしたいから。部活動をして、友達を増やしたり、みんなとの関わりを増やしたい。でも、友達の視線が怖いとも感じる。
Q. 高校はどうしようと思っていますか？		
体験には二つ行く。H高校か、U高校にしようかと思っています。	部活はもうしない予定	まだ、考えられない。
Q. 将来はどうしようと考えていますか？（仕事や夢）		
当然無理だと思うけど、野球選手を目指しています。高校でも、野球をやりたい。	体育の先生	野球選手。
Q. 進路での悩みや不安、後悔はありますか？		
高校はどこに行こうか悩んでいます。	今のところない。	ぼくも、3年生になって、高校について悩むと思う。

④ その他

Q. 友達は何人いますか？		
部では5人ぐらい。クラスには2人。1、2年生のときは、友達と平行線で、あまり会話もなかったけど、3年になり、大会を目指してみんなと会話が増えていった。	10人くらい	友達ができるかどうか心配。S君もできたので、ぼくもできるというなと勇気付けられた。部活動で、友達ができやすいのかなと思った。
Q. 不安や悩みはありますか？		
自分の言っていることが下手でおかしく伝わってしまい、たまに悪口を言われる。昔はみんなにいろいろ悪口を言われたけど、今は特にありません。	ない	ぼくも、口が悪いときがあるから、悪口を言われることがあるかもしれない。
Q. ストレスはありますか？		
ありません。たまに、悪口を言われて、イライラするときがある。	ない	がまんすることは少ないんだな。みんな優しいんだなと感じた。
Q. 休みの日は何をしていますか？		
素振り、ゲーム。休みの日は友達の家に行ったりもする。	部活、友達と遊ぶこと	休みの日に一緒に遊べる友達をつくるのがぼくの憧れ・希望。
Q. ケータイを使っていますか？		
いいえ	家で、友達とLINE（メール）をしたりする。	メールだから、気兼ねなくコミュニケーションできるのかも。
Q. 聾学校と違うところはどんなところですか？		
	先生のしゃべりの速さ。先生が話すのが速いし、進むのも速い。 手話を使わなくなる。 友達がたくさんできる。 給食が、冷たい。	友達がたくさんできることはうれしい。手話を使わなくなるのは、聾学校のことを忘れるようでさびしい気がする。勉強でも、努力をたくさんしているだろうな。

(2) 進路や仕事、聴覚障害のある先輩を知る取組について

自立活動の授業の中では、自分の聴力や補聴器、手帳や等級、福祉サービスなどについて学習するとともに、6年生の社会科（歴史）に合わせた聴覚障害教育の歴史学習、社会で活躍している聴覚障害者について知る学習機会を作っていた。また、中学校進学にも備えて、補聴器の更新に向けた補聴器選定作業と補聴器フィッティングを行う中で、自分自身で調整に挑戦しながら自分の障害や聞こえについて理解を深めることができた。また、FM補聴システムを試した。

進路について学ぶ中で、本人の困難な場面に遭遇した際の消極的な考え方や将来への不安が強いことが感じられた。そこで、総合的な学習の時間を中心に、社会で活躍されている聴覚障害の先輩にアンケートをとって参考にしてみようということにした。

アンケート内容は、A児が聞きたいことを中心に作成した。聾学校卒業生や、聴覚障害のある教員、聴覚障害のある野球選手や映画監督などに依頼をし、6名の方から回答が得られた。アンケート項目と、その主な回答は次のとおりである。

私は今、「自立活動」の勉強で、進路や将来の仕事について勉強しています。そこで、僕と同じ、耳の聞こえない先輩方の意見を聞かせていただきたいと思いました。お忙しいところ、申し訳ありませんがアンケートに答えていただけませんかでしょうか。

よろしく願いいたします。

1 いま、どのようなお仕事をされていますか。

(回答省略)

- 2 聞こえる世界で仕事はうまくできていますか。お仕事で、大事にされている（心掛けている）ことを教えてください。
- 仕事で大切にしていることは、分からなかったときはもう1回聞き返していることです。
 - 新しい情報をきちんと把握すること。（把握してなくて、自分勝手な行動をして迷惑をかけた。）聞いていないでは済まされないの、自分で確認するよう心掛けています。
 - 自分が障害を持っていることを説明することで、上司や先輩が対応してくれ上手くいっている。分からないときには、すぐに聞くことを心掛けています。
 - 自分の気持ちを伝えること。
 - 感謝の気持ちを忘れないこと。
 - 上手いことができるかどうかは、障害のあるなしに関係ない。その人次第、人間としてできているかどうか。
- 3 いま、仕事で不安に思っていることや、悩みはありますか。
- 一回で聞き取れないことが多いので、迷惑を掛けてしまっていること。
 - 情報を把握できているかどうか。
 - 人間関係
 - 仕事内容
 - 悩みは常にある。
- 4 職場で、話が通じないときはどうしていますか？
- 「もう一回言ってくれますか」と聞き返している。
 - 紙に筆記する。空書、身振り、口形が分かるように。
 - スマホのアプリでの筆談
 - メモやホワイトボードの活用。普段からメモ帳を持つと良い。重要な情報やスケジュール確認ができる。
 - どうしたら通じるかを工夫する。
- 5 今の仕事をしようと思われたきっかけは何ですか？
（回答省略）
- 6 子供のときから、いままでどんな進路（学校）を進みましたか？聾学校ですか？一般の学校ですか？
（詳細は省略）一般の学校や聾学校など。転学の理由などを含めて具体的な記述があった。
- 7 社会に出たときに必要な力は、どんな力ですか？学校にいた間に身につけたらいいことを教えてください。
- 会話力と失敗を恐れない前向きな気持ち。健聴者とも積極的に話そうとする力を身に付けたいと思う。
 - 計算の力とコミュニケーション力（指導的な立場にもなるため）
 - 相手の気持ちを理解する力。笑顔であいさつできる力。ハウレンソウ（報告・連絡・相談）のできる力。
 - 与えられた課題（宿題）をきちんとやって、提出期限を守ること。コミュニケーションのとり方。積極的にやること（あいさつや会話など）。新しいことへのチャレンジ。分からないことは、すぐに聞くこと。
 - コミュニケーションが必要なもので、日本語をきちんと覚えてほしい。（口話で伝わらないときは、筆談になるので）また、様々な情報収集とマナーを身に付けておくことも大事。毎日ニュースを見ることや、新聞を読むことをお勧めします。
- 8 仕事をやめようと思ったことはありましたか？その困難をどうやって乗り越えましたか。
- 入社して半年は話せる相手が少なく仕事も慣れず辛いこともあったが、一年経って自分と同じ趣味を持っている人を見つけ、たくさん話せるようになった。この人ともっと話したいと思えると仕事を辞めたくなくなります。
 - 何度かあった。飲みに行き打ち明けたりしたことで乗り越えることができた。仲間を見つけて、（相談しやすい人でもいいから）、打ち明けることも大事。
 - 辞めようと思ったことはないが、もう嫌だと何度も逃げ出したくなることはあった。

忙しいところ、ありがとうございました。

(3) 地元小学校での交流を通して自己理解を図る取組について

ア ふれあい体験（7月、地元小学校への交流）を通して

特別支援学校の小中学部の在籍児童生徒は、年に3回程度地域の学校に入っでの交流が希望できる。A児は、小学部1年生のときから、毎年校区の小学校との交流を年3回程度継続してきている。

今回、小学校最後の1年であり、地域中学校を希望進路としていることから、漫然と交流するのではなく、どこまでが自分の力ででき、どこから支援をお願いしたいといけないか、また、どうすれば今よりも授業や友達の話が分かるようになるのか交流の事前事後で考えることにした。目標を立てて交流に臨み、交流後の反省では次のようなことがA児より出てきた。

○朝の会 情報保障：なし

朝の会で、みんなの呼名がほとんど分からなかった。クラスの友達の名前を知らないで聞こえたことばが合ってるのかどうか不安になる。朝の会で、どんな話をしているのか分からなかった。お願いして尋ねることは、嫌われるかなという恐怖心が強くできなかった。

話の内容が分かるようにしてほしい。先生には、動きながらしゃべられると分かりにくい。話の時に別の人の方が話をすると注目できない。

○国語

情報保障無しでは、あまり分からなかった。先生に通訳に入ってもらってから、大体分かった。

先生の話すスピードが速かったので、ゆっくり話してほしいと思った。教科書など、歩きながら読まれると、どこを読んでいるのか確認できない。

先生と生徒の掛け合いを知りたいが、聞き取れない。

班での話し合いが分からなかった。班での話し合いで、下を向きながらの発表や意見は分からない。話し合うときは机をくっつけて、顔が見えるようにしてほしい。

○英語

先生が手話で通訳に入ってくれたこと、聾学校でやったことがあって、内容が似ている、ことばも知っていたから、大体分かった。

教室がうるさいとき、先生には近寄ってきて話をしてほしい。近くだとはっきり聞こえて分かる。

○社会

FMマイクを試して勉強したが、先生の声が小さくて、他の子供の声が入って分からなかった。FMマイクが聞こえなかったので、手話通訳をお願いした。ところどころ授業は分かった。

先生には、大きな声で話してほしい。

○道徳

FMマイクを使って授業を受けた。先生が歩きながら物語について話していたので、どこをしゃべっているのか分からなかった。壇上に立って、前を向き、顔を上げて話して

ほしい。

友達への注意などが分からなかった。

○帰りの会

友達のスピーチは、先生が通訳に入っていないときは、分からなかった。今何をしているときなのか分かるようにしてほしいし、何をするのかあらかじめ教えてほしい。歌を歌ったが、歌の歌詞を準備してほしい。

スピーチの内容などは、メモでもらえるとありがたい。

○算数

FMマイクをつけてもらい、となりで筆記通訳して教えてもらったので半分くらい分かった。友達の考え方の発表があったが、分からなかった。先生は、発表者を指差してほしい。次に何をしたらいいか分からなかった。

○音楽

FMマイクを使用した。どこを歌っているのか分からなかった。友達がプリントで歌詞を指差してくれたこともあり、分からないことが少なかった。前に、歌詞が書いたものがあるとよかった。楽しい雰囲気の中で、子供同士でたくさんお話もできた。

これらの反省を基に、聞こえないことへの配慮をA児自身に考えさせたり、授業が分かるためには、さらにどのような支援や改善が必要なのかを一緒に考えたりした。

その中で、今後の交流をどのように進めていったらよいかを明らかにするため、A児の基本的な要望や期待を確認した。以下の3点について、意見をまとめることができた。

交流について児童が期待・希望する3つのこと

- ・今はきっかけが少ないが、(新しい)友達ができたらいいな。またもっと関係を深められたら、話ができるし、話が楽しくなる。【話のできる友達作り】
- ・楽しく勉強ができたらいいな。みんなと共同でする(グループ活動、話し合いなど)活動の中で、分かったり、参加できたり、みんなの役に立ったりできたりするといいな。【分かる授業、参加できる授業】
- ・自分が入ることで、いつもと内容が変わったりして悪いなあと思う。気を使わせて悪いと感じる。今は、話し掛けにくい、話し掛けられない。直していきたい。【話し掛ける勇気を持てる自分に成長】

イ 地元小学校での交流(10月31日)を終えての本人の反省・感想

2回目の交流の中で、上記3つの期待や希望がどのくらい達成できたかを、交流後に反省してみた。

ワークシートに5段階での評価を行わせた。前回(7月実施)の交流の達成度を△、今回の交流を○印として、相対的にどのような感じ方の変化があるのか確かめてみた。評価は1を悪い、5が良いとして考えさせた。

■友達作りや友達との関係は深まりましたか？2→4へ上昇

感想：みんなが手話を覚えてくれ、使ってくれたので会話ができるようになりました。うれしいです。誘ってくれました。話もたくさんできました。（A児）

通訳に常時入り、友達関係を観察していたが、これまでの交流ではなかったか関わりが多く見られた。A児からちょっかいを出したり、ふざけあたりという姿もたくさん見られた。授業中も、前の児童や横の児童とおしゃべりをしたりすることも多くあった。1・2時間目の理解啓発授業の成果でもあるだろう。本人もリラックスして授業を受けていると感じられた。

関わりが生まれたことで、友達の名前を覚えたことが何より効果的であった。名前が覚えられたことの背景として、机の上に縮小した座席表を置いておき、指名や発表などには、その座席表から名前を調べられるように工夫した配慮が大きかったようである。

■授業（先生）の説明は分かりましたか？2→3へ上昇

感想：前に立つ先生よりも、通訳が分かりやすい。

前回7月の交流では、はじめ情報保障のない状態から、本人の求めに応じて手話通訳や筆談で入るようにしていたが、今回は、はじめから全ての情報保障に入ったため、本人は困ることがなかったと思われる。（担任）

交流学級の先生方にとっては、A児との交流が年に3回と少ないこともあり、聴覚障害に対する授業中の十分な配慮はなかなか難しいものがある。今回は、友達の意見が分かるようにしたいという本人の希望もあり、発表者へは手差し及び呼名であてることを実践してもらえた。

国語では、漢字カードの提示などしてくださった。

■友達との学習（共同学習）が深まりましたか？3→4へ上昇

感想：友達の話が分かってとても良かったと思います。（A児）

交流学級の担任に、グループ活動などでの学習を希望することを伝えたところ、グループ内での相談や、話し合いの活動が入るような内容に授業内容を変更してくださった。

本人は話が分かったと感想を言っているが、お互いが分からない場面多かったように思う。それよりも、友だち同士でコミュニケーションがとれたという嬉しさのほうが勝っているためだと感じる。

自然に話しかけたりする場面が多く見られて良かったと思われる。逆に通訳に集中しないこともあり、情報を逃すことも多かった。（担任）

クイズ発表では、やや用紙が小さく文字が見えにくかったため、グループの位置を発表者の正面にしてもらう必要があった。通訳の位置に配慮が必要である。

■自分から勇気を出して話し掛けることができましたか？1→1

感想：すみません、できませんでした。

■話しかけられたことが分かりましたか？分からないときの対応は良かったですか？2→3へ上昇

感想：友達が手話をしてくれたのでなんとなく分かりました。

これまでの交流に比べ、非常に会話やコミュニケーションが増え評価できる。（担任）

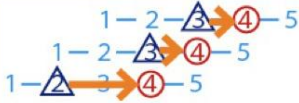

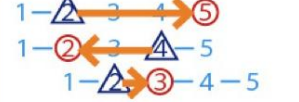

交流をした一日の中で、うれしかったことや良かったことを聞いてみたところ次のような感想を述べた。

- ・友達が筆談で教えてくれた。
- ・友達がみんな手話を使っていたのでうれしかったです。話すことができうれしかった。

・(今までの交流と比べて) 友達が変わった。積極的に話し掛けてくれた。変わってくれたので、僕も変わりたいと思いました。

ウ 地元小学校での4回の交流における評価の変化

この年、A児は4回の交流を行うことができた。最初が7月、その後10月、11月、1月である。この4回の交流の評価がどのように変化していったかを示してみる。評価の仕方、評価のワークシートは上記に示した項目と同じ内容で繰り返し評価した。下に、4回の交流の評価がどのように変化したかを項目ごとにまとめてみた。

A児の願い・課題	上から11月→1月の反省 10月→11月の反省 7月→10月の反省 ※各交流事後に、A児が前回を△今回を○で比較記入。3回の評価を下から順に重ねた。	変容の度合い	イ 分かる授業・参加できる授業 Q. 友達との学習(共同学習)が深まりましたか?		+3
ア 話のできる 友達作り Q. 友達作りや友達との関係は深まりましたか?		+4	ウ 話し掛ける勇氣を持てる自分に成長 Q. 自分から勇氣を出して話し掛けることができましたか?		+2
イ 分かる授業・参加できる授業 Q. 授業(先生)の説明はわかりましたか?		+2	ウ 話し掛ける勇氣を持てる自分に成長 聞き返し・対応 Q. 話しかけられたことがわかりましたか? 分からなかったときの対応はよかったですか?		+1

数回の交流の度に、3つの願いについて5項目のアンケートによる評価と次回交流の課題をA児と一緒に考えた。5段階評価で、前回の交流の達成度を△、今回の交流を○印として、相対的にどのような感じ方の変化があるのかを調査した。評定は1を悪い、5が良いとして考えさせた。

4回の交流の結果、「友達作り」では、7月評定2→10月評定4、10月評定3→11月評定4、11月評定3→1月評定4と上昇していった。

「分かる授業」では、7月評定2→10月評定3、10月評定4→11月評定2、11月評定2→1月評定5と変化した。

また、「参加できる授業」では、7月評定3→10月評定4、10月評定3→11月評定4、11月評定3→1月評定4と、徐々に上昇した。

「話し掛ける勇氣」では、7月評定1→10月評定1、10月評定3→11月評定4、11月評定3→1月評定4と、回数を行うことで、自分からも話せるようになったと振り返っている。

「聞き返し・対応」では、7月評定2→10月評定3、10月評定4→11月評定3、11月評定2→1月評定3という評価を行った。

A児は、毎回交流の1時間1時間を細かく振り返った評価ができていた。特に、11月の時点で評価が下がるが、自分から配慮を要請しなかったために授業が分からなかったという経験をしたことにより、気が付いたことも多くあったようである。手話通訳やノートテイクがない場合、授業が分からなくなるが、逆に情報保障さえあればみんなと同じように学ぶことができるという自信が付いたということである。

こうした評価をするとともに、配慮をお願いしたい点を、毎回ビデオレターに作成して交流校に届けた。交流校では、ビデオを事前に視聴し、A児の願いを理解し、交流の際に配慮するように努力してくれていた。

4 研究の結果と考察

(1) 地元中学校の難聴特別支援学級参観とインタビューの取組について

A児は、参観で実際の授業を体験し、特別支援学校と異なり配慮が少ないことや、分からない場面も多いことを理解した。また、先輩達が自ら行動して配慮を願う様子などを見ることで、自分にも同じことができるのではないかという期待を持てるようになった。また先輩達へのアンケートは自分が気になることについて、リアルに回答があったため、いじめ等についての不安や心配が軽減されることにもつながった。中学校での生活や学習についての見通しを持ち、自分の障害や、それに伴う自分の行動について意識を高めることができた。

(2) 進路や仕事、聴覚障害のある先輩を知る取組について

同じ障害を持つ先輩方へ手紙でアンケートを行ったことで、いろいろな進路選択があることや、同じ悩みを抱えて成長したこと、悩みや不安はあるがそれを乗り越えて頑張っていることなどが理解でき、自分だけが障害や進路で悩んでいるわけではないことを確認できた。

特に先輩方からの返答には、A児がまだ考えられなかった大事なことや社会の厳しさを実感できたことは、大きな学習成果につながった。並行して交流の取組を行っていたが、その反省点と共通の内容があったことで、交流学習を通して自分を見つめるための手掛かりになった。

(3) 地元小学校での交流を通して自己理解を図る取組について

研究の中ではメインになる取組であったが、この交流を計画的に実施したことで、A児は自分自身の障害や性格について見つめ直すことができた。交流の中では、周囲に自分から配慮を求めながら、その配慮の検証を進めることで自分自身にも自信が持て、積極的に友達と関われるようになっていったと思われる。特に良かった点は、反省とチャレンジを繰り返す中で、A児自身が、自分が変わっていている点を自覚できたことである。

現在A児は、地元で中学校生活を送っており、学習面に自信を持って取り組み、友達関係も良好に学校生活を楽しんでいるようである。この取組の中で学んだことが生かされていると感じる。進路を契機に取り組んだ障害認識に関わる取組であったが、学習した内容はキャリア教育にも通じるものを意識的に取り入れた。交流共同学習は、自分や障害についてしっかり理解できる良い機会であるし、自立活動やキャリア教育の機会にもなりうることを再認識できた。